表紙にこめた想い

表紙のデザインは、益城町在住のマネキンアートユニット「sho_maa」のお二人に「ふるさと・益城町の風景」をテーマに描いてもらいました。ふるさとをあさごはんのように、ほっとする存在に見立て、益城の特産品の柿やスイカ、ブドウ、米…さらに、遠く望む益城四山で構成されています。遠くからは飛行機が飛んでくる迫力も表現。他にも、まだまだ自慢の味覚や景色など、「あれも、これも」とみなさんで話をしてくださると嬉しいな…と思います。

Cover design

sho_maa デジタルアートユニット

自らがマネキンに扮し、熊本県内各所を背景に撮影。CG加工を施したデジタルアートが作り出す、非現実で不思議な世界が人々を魅了しているマネキンアートユニットです。熊本地震後は、マネキンアートパフォーマンスを通して支援活動を行うなど、ふるさとのために活動するお二人。益城町復興大使。

益城町ふるさと風景イメージ集

2021年3月発行

発行 / 益城町

熊本県上益城郡益城町大字宮園702

TEL:096-286-3223/FAX:096-286-4523

ふるさとは「あさごはん」みたい

毎朝、食卓に並ぶ
あさごはん。
今日のお味噌汁の具は、
何でしたか？
何気ないあさごはんだけど、
ほっとしたり、
元気が出たり。
それはまるで
「ふるさと」のよう。

いろんなあさごはんがあって
いろんな人たちにも愛されて、
愛され方もそれぞれで…。
私たちの益城も、
いろんな人たちに
いろんな愛され方を
してきました。

そして、
それはこれからも
続くものであってほしい。

「このまちをもっと好きでいたい、
もっと愛したい」
もっと素敵なまちにするために
想像してみましょう。
ちょっと未来の益城を。

「住みたいまち、
住み続けたいまち、
次世代に継承したいまち」

これは、平成30年度に策定した第6次総合計画で掲げる「まちの復興将来像」です。
この「まちの復興将来像」について、もっと“見えやすい”かたちで描き、もっと色々と具体的な話をしてみたい。
そう思い、これまでの住民のみなさんとの意見交換等でいただいたご意見に基づきながら、熊本大学・景観デザイン研究室にもご協力いただき、「ちょっと未来のまち」のイメージを絵にしてみることにしました。

そしてできあがった「益城町ふるさと風景イメージ集」。これは、都市計画事業の正確な内容を表したものではなく、あくまでちょっと未来のまちの想像図です。ページをめくりながら、「ちょっと未来のまち」を想像してみてください。

本紙の後半には「ぬり絵」もご用意しました。色んな方の想像図が重なりながら、今よりもっと素敵なまちづくりにつながっていくといいな、と思っています。

想像してみましょう。これからの、私たちの益城を

00

all mashiki

まずは、ふるさとをふかんで見てみましょう

地域の特性を生かして位置づけた「拠点」

「益城町」と一口に言っても、それぞれの地域ごとに特性があります。商業や医療などの都市機能が集まる場であったり、日常生活を送る場であったり、豊かな自然環境があったり…。第６次総合計画では、それぞれの地域が持つ特性を見つめ直し、認め合い、そして大切に育んでいくことによって、益城の底力が高まり、掲げる将来像の実現につながると考え、地域ごとの特性を生かした拠点を位置づけています。

今回、これらの拠点を中心に６つのイメージ図を描いてみました。町全体のつながりも感じながら、各拠点周辺の素敵な未来を想像してみましょう。

Contents

今回は、みなさんの身近にある６拠点について描いてみました。

コミュニティ拠点 飯野(→p5)・福田(→p7)・津森地区(→p9)

地域の人々が集まることで、地域内でのコミュニティ形成や地域間の連携の中心となっていく、「集落部における地域間交流の拠点」です。

潮井自然公園 (→p11)

町のオアシス・潮井水源を基点として、豊かな水と自然、断層や四賢婦人記念館といった豊富な資源を活用した交流を促していく、「自然の中の“学び”と“遊び”の拠点」です。

地域拠点 広安地区(→p13)

町の人口の約6割が集中する地域において、多様なサービスの提供を通じて地域住民の生活利便性の向上を図っていく、「町の副都心としての拠点」です。

都市拠点 木山地区(→p15)

行政・商業・サービス・交通結節など、都市に必要な機能の集積を図ることで、町全体の暮らしやすさを実現していく、「町の将来をけん引する中心拠点」です。

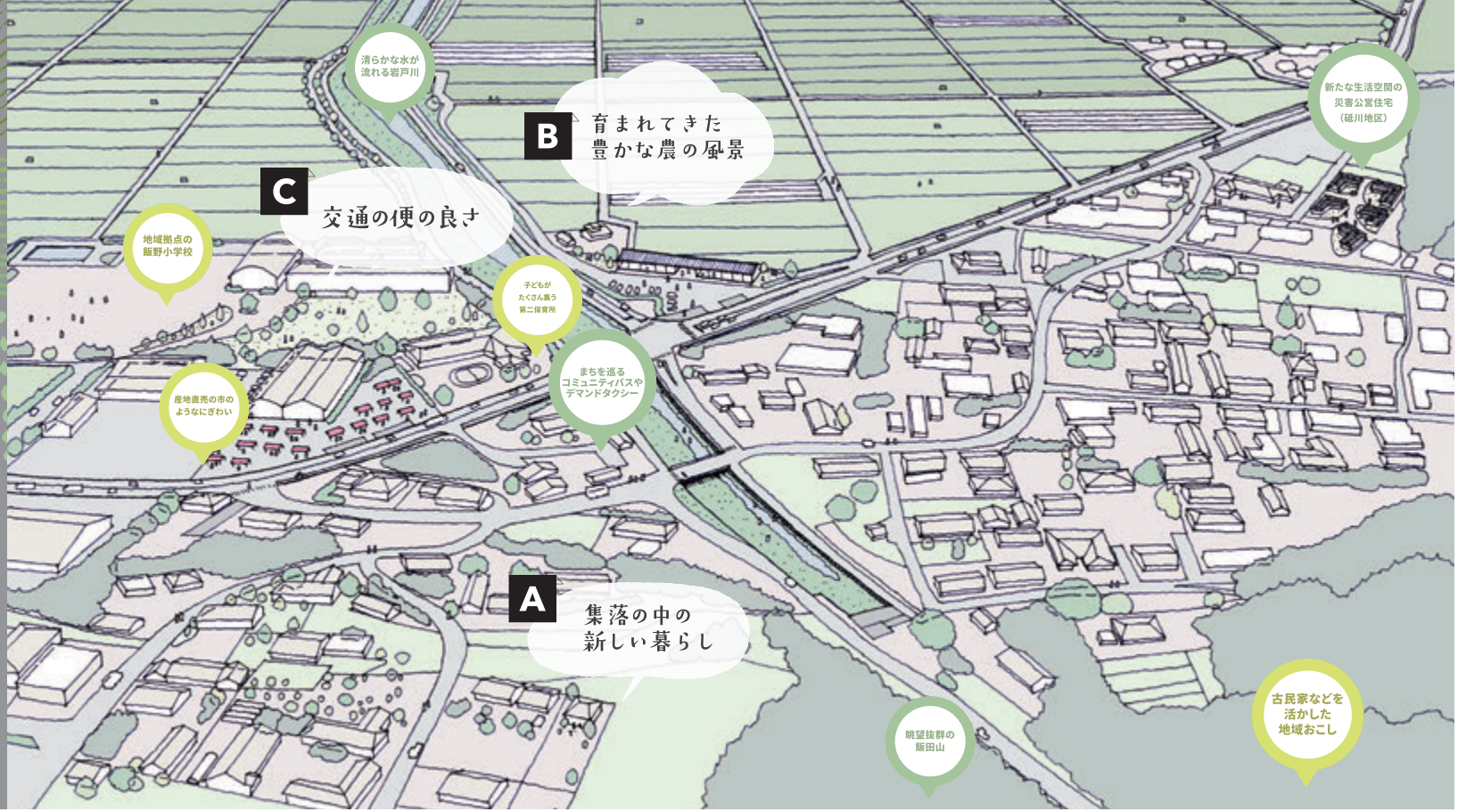
※下記のイメージは都市計画事業の正確な内容等を表したものではなく、『まちの賑わい』の雰囲気を表現したイメージとなります。

ちょっと未来の飯野
さあ、考えてみよう！

01 community

飯田山に見守られ、人と人がつながり続ける場所へ

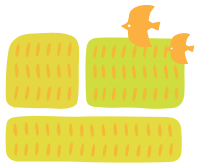
iino



※上記のイメージは都市計画事業の正確な内容等を表したものではなく、『まちの賑わい』の雰囲気を表現したイメージとなります。

A 集落の中の新しい暮らし

新たな生活空間として生まれた災害公営住宅、古民家を再生させた地域おこしなど、飯田山のふもとで昔から続く既存集落の中に、新しい暮らしが育まれていくでしょう。



B 育まれてきた豊かな農の風景

益城町の豊かな湧水を象徴するそうめん滝を源とする砥川用水に潤された水田。飯野を強く印象づける豊かな農の風景は、地域の人々によって、これからも受け継がれていくであろう大事な風景です。

C 交通の便の良さ

小池高山ICに直結する国道443号が通るなど、交通の便の良さも大きな特徴です。その特徴を活かして、産地直売市やフットパス・トレイルランイベントの開催など、にぎわいづくりに向けたさまざまな活動の拠点になっていく可能性を秘めています。

コミュニティ拠点 飯野

iino

飯田山のふもとに位置する飯野。400年前から続く「砥川阿蘇神社」で行われる獅子舞の奉納など、伝統文化が残る地域です。熊本市などへのアクセスや教育環境の良さから移住者も多く、平成27年度から5年間で122世帯も増え、子どもたちのにぎやかな声が地域に溢れています。さらに、国道443号が通っており、他地域から町内への誘客の拠点としても期待が持てる好立地。地域住民発信のマルシェなど、楽しい仕掛けをするにはピッタリな場所です。

◢ 標高431mの飯田山は気軽にトレッキングが出来る山

櫛島地区に残る伝統的な祭り「千灯明」

水不足に苦しむ人々のために寛政3年(1792年)に完成した砥川用水に水を注ぐそうめん滝

地域住民による景観づくりの一環で植えられたひまわり

my favorite points

私たちはこんな「飯野が好き」！

石金さん（石金粘土瓦工場）
飯田山の山頂からの景色！昼は益城の風景の先に有明海まで見えて夜は夜景が綺麗です

高田さん（住民）
人と伝統が好き！男性は優しく、女性はパワー溢れる人が多く、伝統を大事に守り続ける地域です

山口さん親子（住民）
インターも近く、どこに行くにも丁度良い距離感。それでいて、自然が豊かでのどかなところが大好きです

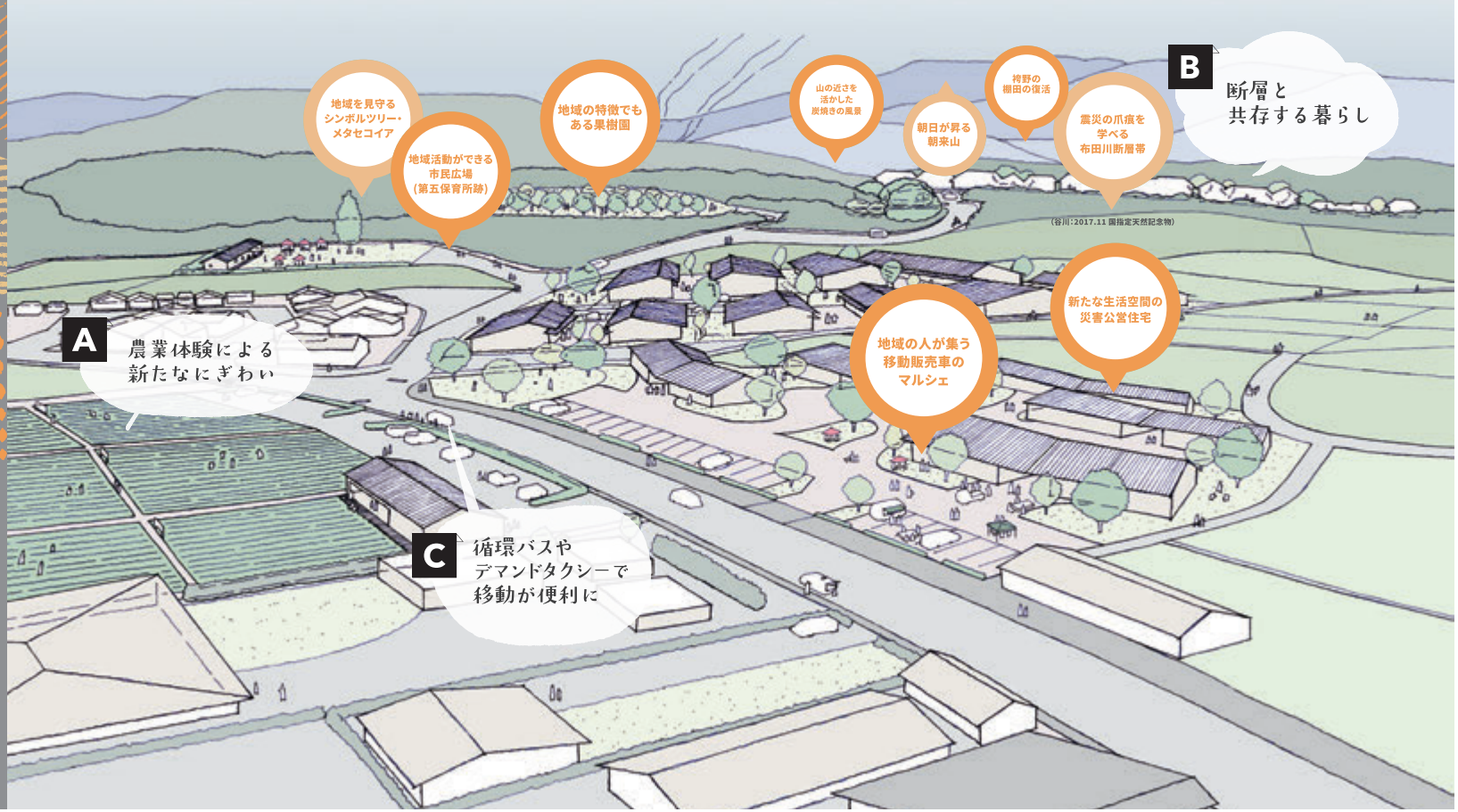
山本さん親子（住民）
子育てしやすい環境が整っているところ。子どもが参加しやすい行事も多く、地域の人が温かく見守ってくれます

ちょっと未来の福田
さあ、考えてみよう！

02 community

恵まれた地形がもたらす豊かな食を、福田の未来へ

fukuda



※上記のイメージは都市計画事業の正確な内容等を表したものではなく、『まちの賑わい』の雰囲気を表現したイメージとなります。

A 農業体験による新たなにぎわい

袴野の棚田や炭焼きの煙、ふもとに広がる果樹園。こういった福田の原風景と、貴重な資源である豊かな土と水を大事に維持しつつ、農業体験などの活動を通じて人と人とのつながりが生まれていくことで、新たなにぎわいの風景の創出が期待されます。

B 断層と共存する暮らし

布田川断層帯が地域を横断しているため、天然記念物となった谷川地区の断層だけではなく、平田中公民館の消防小屋など、多くの震災遺構が存在します。一方で、災害公営住宅や保育所跡地を活用した避難公園が整備されており、震災の教訓を活かした新しい暮らしが育まれていくでしょう。

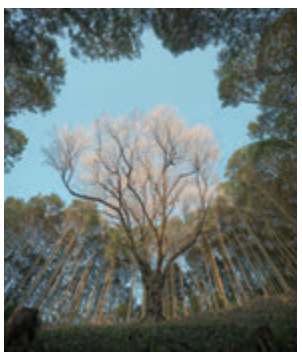
C 循環バスやデマンドタクシーで移動が便利に

益城四山（飯田山・船野山・朝来山・城山）のふもとに育まれた福田の豊かな暮らしは、若宮神社や放牛地蔵などの信仰を守る心と共に維持されています。新しい交通サービス（循環バスやデマンドタクシー）を導入するなど、暮らしのバリアフリー化を目指すことで、高齢者にも優しい地域になることでしょう。

コミュニティ拠点 福田

fukuda

地域の人に福田の魅力を聞くと、「何もなかよ」と言いつつも、次々と食のおもてなしが出てくるそうです。南北に細長く高低差が大きい福田は、スイカやぶどう、栗、梨、柿、米といった、様々な種類の作物に恵まれた、食が豊かな地域。それが当たり前だから、「何もなかよ」という声が出るのでしょう。四季折々の景色や眺望の良さといった地域の魅力にも惹かれて、子育て世代の人口は急増。地域の魅力と人とのつながりが、また新しい地域の魅力作りにつながっていきます。



◢ 杉林の中でひっそりと咲く隠れ桜「福田桜」

谷川（たにごう）地区では、国内でも珍しいW字型に表出した「共役（きょうえき）断層」を見ることができます

郷愁誘う、牧歌的な景色が残る、山あいの集落の風景

豊富な果物の中でも人気が高い「ロザリオビアンコ」

my favorite points

私たちはこんな「福田が好き」！

ONE TEAM!
つながりを大切にして、生きがいを持ち安心して暮らせる地域をめざしています。この地域はダイヤモンドの原石。可能性を秘めた場所です

30・40代の層が厚く、仲が良い。移住者との新しい交流も生まれ、連携が取れている地区です

区長さんを筆頭にLINEグループがあるんですよ。昔ながらの「子どもの見守り」が残りつつ、柔軟性がある点が大好きです！

毎日違う美しい景色も、地元愛たっぷりの住民たちも、福田の全てが好きです。私にとって、安心できる場所。

平田・柳水地区 郷づくり協議会
濱田さん・西坂さん・井上さん

住民
知名石さん

住民
大塚さん親子

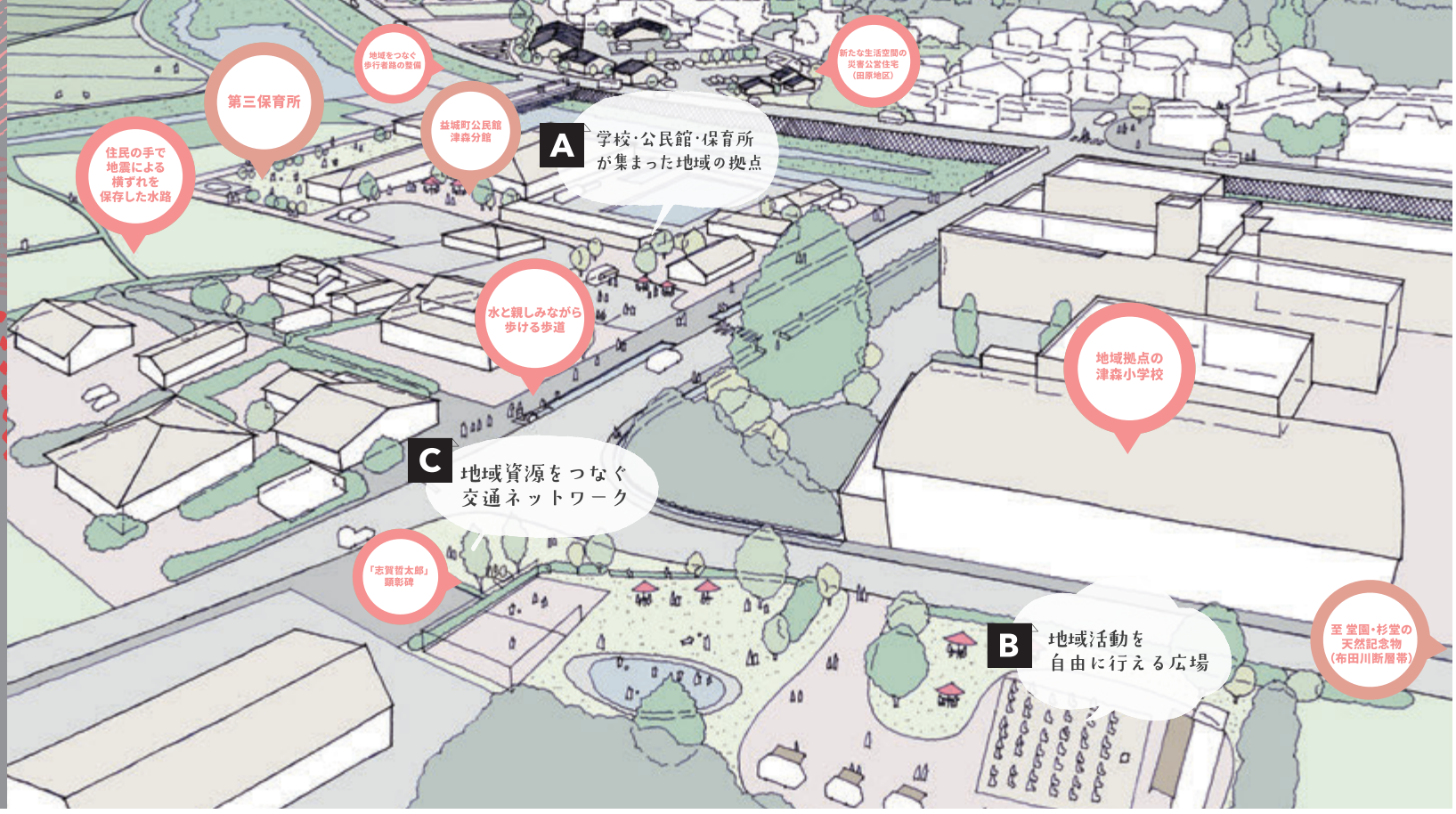
むらかみファーマーズ
村上さん

ちょっと未来の津森
さあ、考えてみよう！

03 community

学び舎を中心につながる津森の絆を大切に

tsumori



※上記のイメージは都市計画事業の正確な内容等を表したものではなく、『まちの賑わい』の雰囲気を表現したイメージとなります。

A 学校・公民館・保育所が集まった地域の拠点

コミュニティーの核となる津森小学校、第三保育所、公民館津森分館といった施設が地域の中心に集まることで、人が集いやすい拠点を形作っています。安全で快適な道でつながることで、コミュニティーづくりの推進と地域の防災力の向上が期待されます。

B 地域活動を自由に行える広場

公民館の前や四賢婦人記念館跡地を、住民が自由に使える市民広場にすることで、様々な地域活動を展開する拠点に。また、地域をつなぐ県道熊本高森線の辻々に小さな広場を設けることで、交流の場としても活用できます。

C 地域資源をつなぐ交通ネットワーク

徳富蘇峰生家をはじめ、志賀哲太郎顕彰碑、堂園池の大蛇伝説、布田川断層帯の二つの天然記念物（杉堂・堂園）、住民自ら熊本地震の遺構を保存した水路など、多くの歴史的・文化的な資源が点在しています。これらの地域資源をつないでいく交通ネットワークの形成も期待されます。

コミュニティ拠点 津森

tsumori

澄んだ空気や豊かな自然に囲まれながら、鳥のさえずりで目を覚ます…。都会の人たちが羨む環境が津森には当たり前にあります。津森小学校を中心として、地域住民がつながり、「みんな知り合い」という感覚で自然と生まれる助け合いの心が息づいています。子どもが遊んでいたら、気づけば誰かが見守っている。そんな温かい「見守り」は、この地区の大事な仕組みとして、時代がどう変わろうとも、未来に受け継がれていくことでしょう。

◢ 津森の高遊原公園で古くから開催されてきた高遊原相撲大会（現在は町民グラウンドで開催）

益城（津森地区、福田地区）・西原・菊陽の12地区を1年ごとに廻る「お法使祭」

地区の人たちが手入れし、木山川河川敷に咲き誇る彼岸花
（9月中旬から10月初旬）

春には桜色のトンネルになる千光寺の参道

my favorite points

私たちはこんな「津森が好き」！

焼肉のもりかわ 森川さん 親子

益城町 上陳・下陳・北向地区 まちづくり協議会 理事 西さん

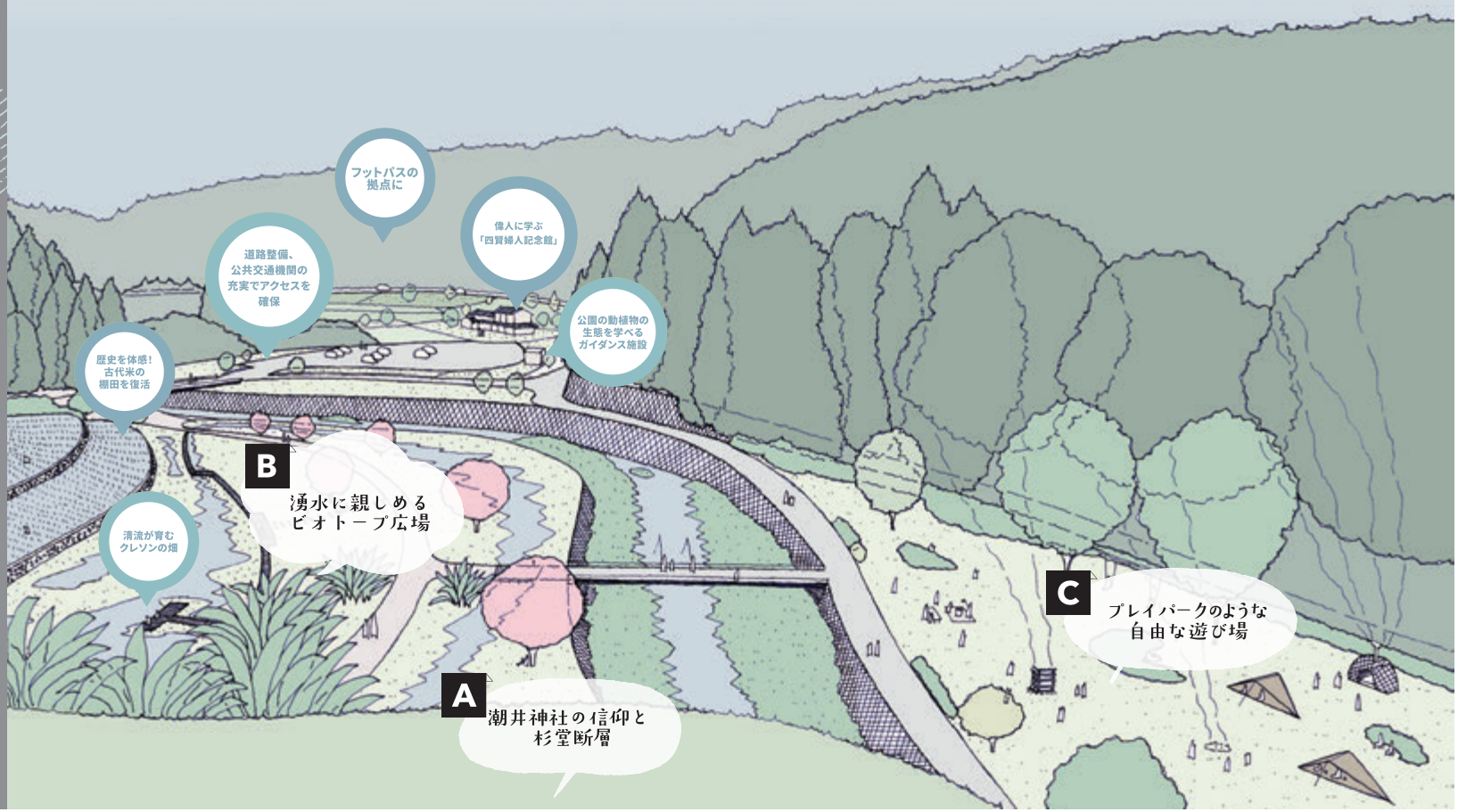
益城町役場 坂本さん

津森神宮 宮司 甲斐さん

ちょっと未来の潮井
さあ、考えてみよう！

04
nature&learn

水と自然に親しみ、防災・減災を学ぶ公園に



※上記のイメージは都市計画事業の正確な内容等を表したものではなく、『まちの賑わい』の雰囲気を表現したイメージとなります。

A 潮井神社の信仰と杉堂断層

熊本地震で被害を受けた「潮井神社」の再建と、天然記念物として保存される断層。これから、自然の恵みと脅威、そしてそれらへの人々の想いを体感できるスポットになっていくことでしょう

B 湧水に親しめるビオトープ広場

潮井水源から湧き出す豊かな清水が、気持ちの良いせせらぎをつくります。綺麗な水に生き物や草花が生息するビオトープ（自然の生態系を身近に感じられる空間）が整備されることで、自然とふれあう子どもたちの笑い声が絶えない場所になっていきます。

C プレイパークのような自由な遊び場

プレイパーク（冒険あそび場）とは、自由な遊びができる公園のことを言います。豊かな森に囲まれたこの公園では、町なかではできないダイナミックな遊びができます。そんな遊びは、楽しい防災キャンプへの関心にもつながっていくことでしょう。

潮井自然公園

Shioi Nature Park

五穀豊穣の神を祀る「潮井神社」。清らかな水がこんこんと湧く「潮井水源」。人々の癒しの場でもある公園には、「四賢婦人記念館」が移設され、学びの場としての歩みを始めています。さらに、熊本地震で被災し断層があらわになった潮井神社は、そのまま国指定天然記念物として保存され、地震による大地の変化を間近に感じられる防災・減災の学びの場所ともなっていきます。潮井自然公園は、水や自然、地域の歴史・文化に親しめる、これからの町にとって、さらに大切なスポットとなっていくことでしょう。

水源から冷たく清らかな水が流れる小川は、安心の遊び場に

清らかな水が育む自然美。クレソンが茂っています

近代日本の女性の地位向上に尽力した「四賢婦人」から学ぶ記念館

拝殿前に表れた長さ4メートル、落差70センチの断層

my favorite points

私たちはこんな「潮井が好き」！

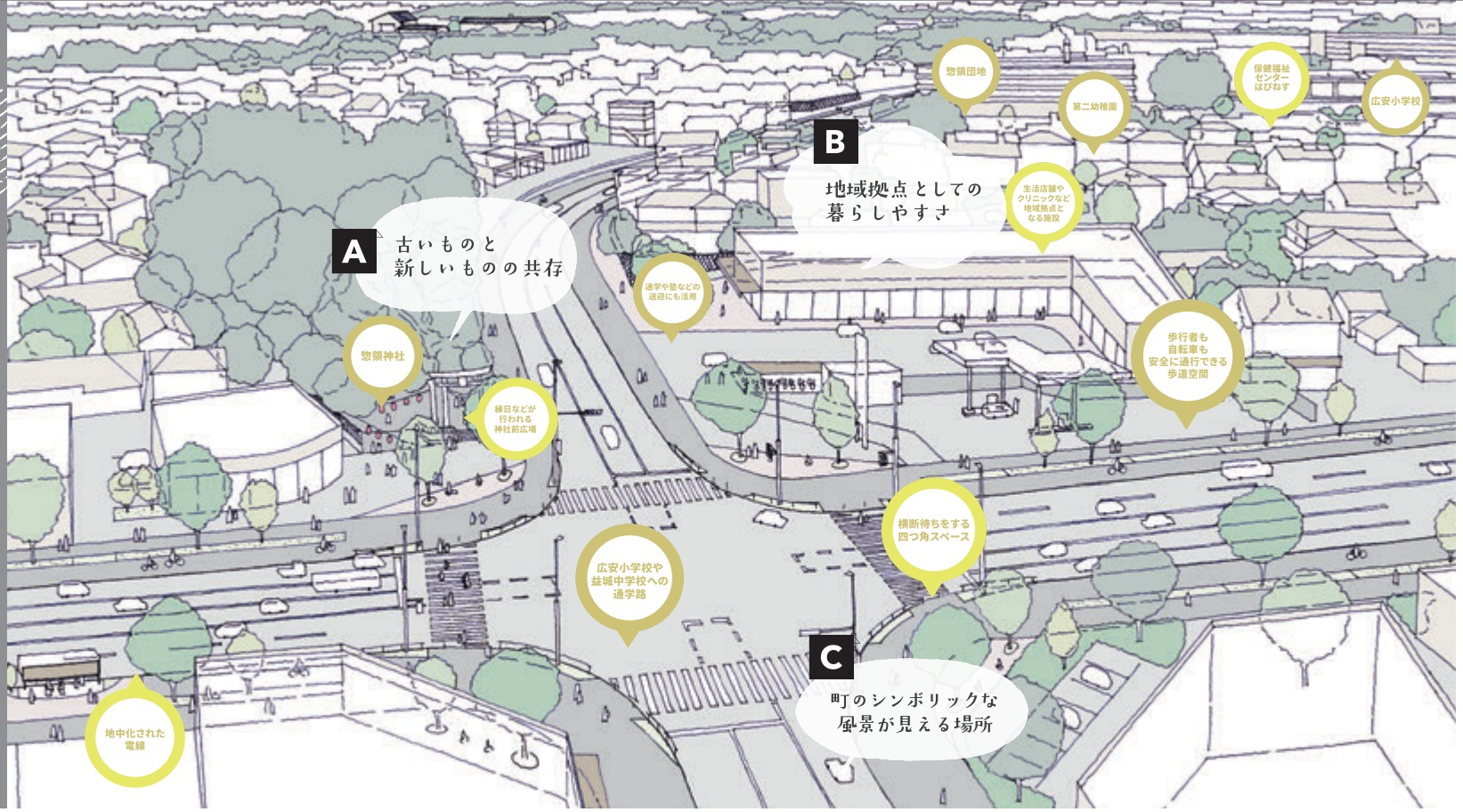
住民 山本さん　住民 高木さん親子　住民 吉村さん　住民 吉本さん　区長 嶋田さん

ちょっと未来の広安
さあ、考えてみよう！

05 local

暮らしに欠かせない日常を支えるまち・広安へ

hiroyasu



※上記のイメージは都市計画事業の正確な内容等を表したものではなく、『まちの賑わい』の雰囲気を表現したイメージとなります。

A 古いものと新しいものの共存

県道熊本高森線4車線化によって生まれる歩道や惣領神社前のスペース等では、新たなにぎわいが期待されます。一方、猫伏石等の古くからの歴史を感じられる木山往還では、昔ながらの風景の中を快適に歩けたり、子ども達が安全に通学できたりすることも期待されます。

B 地域拠点としての暮らしやすさ

熊本市に隣接し、町の人口の約6割が集中する広安は、教育・商業・医療などの機能が集積する住宅地としての暮らしやすさが魅力的な地域です。これから誰もが移動しやすいまちづくりが強められ、施設同士のつながりが強まっていくことで、ますます生活の利便性が高まっていくことでしょう。

C 町のシンボリックな風景が見える場所

町の西端に位置する広安からの飯田山の眺望は、横井小楠も愛した、まさに益城町のシンボルといえる風景です。これからも多くの心を満たしていくでしょう。

地域拠点 広安

hiroyasu

町内の人口の約6割の人たちが住む広安。通学・通勤のために行き来する車や人も多い惣領交差点周辺には、生活に必要な店舗やクリニックも集まっています。それらの施設がさらに充実することで、より暮らしやすいまちになっていくことが期待される地域です。また、県道熊本高森線の4車線化に合わせて分離帯のある幅広い歩道が整備されることで、安心して元気に歩くみなさんの姿が見られるようになり、さらににぎわいのある空間が生まれることでしょう。

◢ 熊本市街地への通勤、小学校・中学校への通学路として人の往来の多い交差点

子育て世代が多く暮らしており、学校も充実しています

加藤清正公の時代から語り継がれる民話が残る「猫伏石」

天保15年（1844年）建立。氏神として祀られてきた「惣領木神神社」

my favorite points

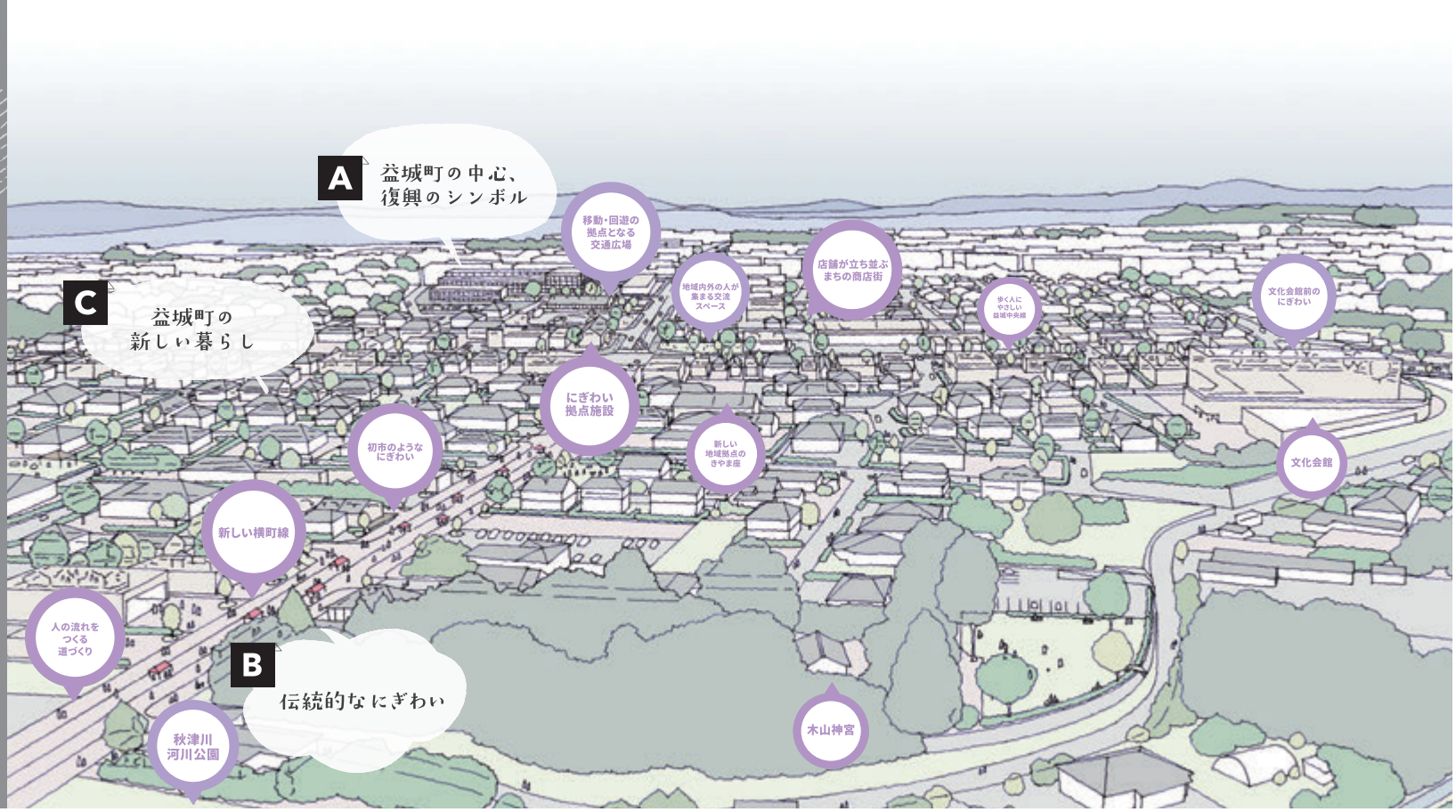
私たちはこんな「広安が好き」！

益城町児童館 井口さん　永木さん　北野文具店 北野さん親子　呉六玉 本田さん夫妻　住民 吉川さん

ちょっと未来の木山
さあ、考えてみよう！

06 city

多くのヒト・モノ・コトが行き交う わくわくの交流拠点・木山へ



※上記のイメージは都市計画事業の正確な内容等を表したものではなく、『まちの賑わい』の雰囲気を表現したイメージとなります。

A 益城町の中心、復興のシンボル

木山地区は昔も今も益城町の中心。防災拠点でもある役場新庁舎の再建を核とした新しいまちづくりが進み、「復興のシンボル」としての役割も担っていきます。益城町の復興のシンボルとして、「自然の恵みを享受しながら、その脅威にしっかりと備える」という、益城町の暮らしを象徴するまちづくりをめざします。

B 伝統的なにぎわい

木山神宮の周辺は、米や材木の集荷拠点として、かつては大変な賑わいを見せる場所でした。そんな歴史を背景に持つ横町線は、木山初市のような地域の伝統を伝える場であり続けるとともに、益城にしかない新しいにぎわいを生み出す場所にもなっていくことでしょう。

C 益城町の新しい暮らし

秋津川のせせらぎや木山神宮の杜など、古くから身近な水や緑と共存してきた木山地区。新しいまちづくりによって生まれる交流スペースや商店街でのにぎわいが、自然に恵まれた昔ながらの静かな暮らしと一緒になって、「新しい益城らしさ」を育んでいくことでしょう。

都市拠点 木山

◢ 商工会が中心となって毎年3月に行われる「木山初市」

kiyama

古くは市が立ち、映画館などの娯楽施設などもありにぎわいを見せた木山。近年でも、商店、役場、銀行などが集まる益城の中心地として、町の内外から人が集い、にぎわいが形成されてきました。震災により大きなダメージを受けましたが、県道熊本高森線の4車線化や新庁舎の完成によって、改めて、これまで以上にヒト・モノ・コトが交差する場所となるでしょう。生活に便利な機能があると同時に、木山初市をはじめ様々な仕掛けが行われることで、非日常的なわくわくを提供する場所にもなっていくことが期待されます。

令和4年度に完成予定の益城町役場新庁舎。屋上からは町が見渡せます

1年を通して憩いの場として楽しめる秋津川河川公園

宝暦2年（1752年）建立。熊本地震で被災し、令和3年度の再興を目指す「木山神宮」

my favorite points

私たちはこんな「木山が好き」！

木山神宮 宮司 矢田さん
肥後銀行・木山支店 津田さん
益城だいすきプロジェクト きままに 吉村さん
九ちゃんまんじゅう 松原さん
木山上町地区まちづくり協議会の みなさん

ちょっと昔の益城町

1987 → 2016

「広報ましき」gallery

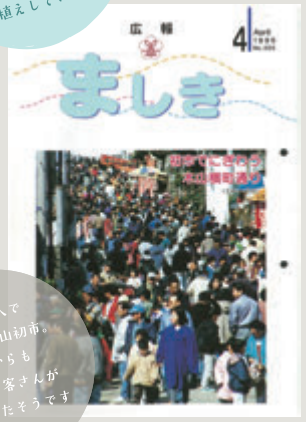
「温故知新」という言葉があります。昔の事をたずねて、そこから新しい知識・見解を導くという意味です。ここでは、これまで発行された「広報ましき」の表紙を彩った「ちょっと昔の益城」の風景をご紹介します。子どもたちにとっては知らない益城。大人たちにとっては懐かしい益城。「ちょっと昔の益城」に触れ、その良さも感じつつ、「ちょっと未来の益城」をイメージする際のヒントにしてみてください。

益城平野の田んぼいっぱいに稲刈りの様子。作られたわら塚が、どこか懐かしさを感じさせます。

国舎は平成28年熊本地震の被害により移転し、跡地は緑地として整備されましたが、国庭の大きなメタセコイアの木は今も残り、地域のシンボルツリーになっています

下陳の献穀水田の田植祭の様子。五穀豊穣を願い、早乙女・早男に扮した子どもたちが稲苗を手植えしています

第1回益城町「熊本空港・テクノ周辺」ジョギングフェア



大勢の人でにぎわう木山初市。町外からも多くのお客さんが訪れていたそうです

町民グラウンド西側で行われた壁画大会の様子。秋津川の堤防をキャンバスに、およそ200人の子どもたちがそれぞれの地域自慢・学校自慢を描いています

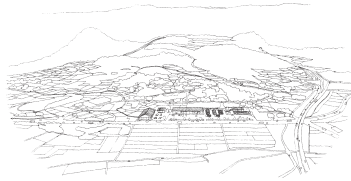
かつての役場庁舎では、年末年始の交通事故防止の願いを込めて、イルミネーションが灯されていました

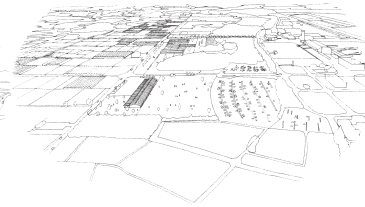
約400年の歴史を持つ、碇川神社秋の例大祭の様子。五穀豊穣を祈願し勇壮な獅子舞が奉納され、毎年多くの見物客でにぎわいます

「益城町ふるさと風景イメージ集」はいかがでしたか？

これからも、町では復興将来像のイメージ図を描き続けます。

総合計画で位置付けている拠点は、本紙で紹介した6つの拠点の他にも、「新産業拠点」や「広域観光レクリエーション拠点」などの拠点があります。本紙で紹介した拠点に限らず、「住みたいまち、住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」を、みなさんの想像をふくらませながら、一緒に描いていきましょう。





Editor's Note

編集後記

Producer

星野　裕司
熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授

地震から4年以上が経過し、益城町のみなさんからお聞きしたさまざまなことがやっと一つの形になりました。この冊子には、益城が持ち続けてきた豊かさと、これから生まれる楽しさがぎっしり詰まっていると思います。未来のふるさとを、もっと豊かに、もっと楽しく。この冊子のイメージを囲みながら、そんな会話が皆様の中で自然に生まれるといいなあって思います。

Assistant producer

増山晃太
風景工房
熊本大学 研究員

益城の風景イメージ図を描いていくに当たり、いろいろな方からお話をお聞きし、ぐるぐると町を巡りながらも、もんもんとするなかで、「ぬりえ」のアイデアが出てきたときにワクワクするイメージ集が見えたように思います。「益城らしさ」や「夢のある未来」を描くのは、この冊子を手にとったみなさんなのです。ぜひ、ドキドキしながら最初の一筆を描き加えてみてください。そのお手伝いとなれば、本望です。

Planner

中村　哲
合同会社じもとピークル研究所

益城町に来て4年半。益城町のいろんなところを自転車で走り回りながら、気になる風景・好きな風景を携帯のカメラに収めてきました。これからも変わらない風景、もっと素敵に変わっていく風景、いろいろな場所があると思いますが、僕たちがその風景を“好き”でい続ける限り、間違いなくずっと素敵な「まちの風景」が続いていくのだと思います。これからもずっと「好き」でい続けるために、このイメージ集をいろんな人が楽しんでくれるといいなぁと思っています。

Supervision

西村　耕一
益城町役場・企画財政課・復興企画係

震災から復興し、変わっていく益城町の将来イメージを町に関わるみなさまと共有したいという思いから作成が始まったこの「ふるさと風景イメージ集」。それぞれが思い描く未来の町の姿とは少し違うところもあるかもしれません。ただ、このイメージ集をきっかけに、みなさんがより一層町に愛着を持ち、誰もがお互いに町の将来について考え語り合い、そして、まちづくりに参加してもらえるようになったらいいなと思います。

Designer&Photographer

吉川　美沙都
PHOTO STUDIO ICECREAM
maa(sho_maa)

生まれ育った益城町の事を、実は私全然知らなかったんだなあって事を知りました。私は馬水育ちですが、ずっと馬水が最強、一番最高！と思っていました。でも、どこが一番だなんて決められないな！って思えるほど素敵な場所と人でいっぱいでした。これからも大好きな町と一緒に人生を謳歌して行きます。

Editor&Writer

今村ゆきこ
イマムラ企画（エディター＆ライター）

何かとご縁の深い益城町。ふんわりと益城はいいところだな～と思っていましたが、冊子の制作を通し、実際に益城で暮らすみなさんから「益城の好きなところ」をたくさんインタビューできて、ますます益城が好きになりました。自分の暮らす町を「好き」と言える事は、本当に素晴らしい事です。この一冊を作りながら、ほっこり心が温まりました。